

山倉大神の石造^{せきぞう}狛犬^{こまいぬ}

市内の神社には50対を超える石造狛犬が奉納されています。狛犬が神社などの参道に奉納されるようになったのは近世になってからです。その後、昭和初頭にかけてさまざまな石工^{いしく}によって意匠を凝らした狛犬が作られました。

鮭祭りで有名な山倉大神には、3対の石造狛犬が残されています。

まず、二の鳥居前には「半身構え^{はんみがま}」と呼ばれる形態の狛犬があります。片方が身構えた姿勢をとる狛犬です。県内では、2軀とも座った姿勢が主流の地域もありますが、香取市では片方が身構え、もう片方が歩行しているような形態が主流です。この狛犬の石工は不明ですが、製作年代は慶応元年(1865)で、市内に残されている「半身構え」の中では特に古いものの一つです。

次に、拝殿前の狛犬は「江戸流れ」と呼ばれる形態で明治32年に奉納されています。派手さを求める江戸っ子文化によって生まれた形態で、参拝者からも見えるように尾を腰の所で巻いたりせず、垂れるようにそのまま足元へと

流しています。石工は芝新門前町(現在の東京都港区)の植田金治郎と鈴木悦造^{えつぞう}で、まさに「江戸流れ」の本場からやってきた狛犬です。特に鈴木は都内にある複数の狛犬で銘文を確認できます。

このほかに、力石の後ろには年代などは不明ですが、2匹の狛犬が追いかけてこをしているように見えるユニークな像も見ることができます。市内で同じ場所に3対もの古い石造狛犬があるのは山倉大神だけですので見学してみてください。

固 生涯学習課 ☎(50)1224



◀二の鳥居前の石造狛犬(半身構)